

トランペットは一生懸命歌っています。ヴァイオリンもつややかな音色で響いています。クラリネットもボーボーとそれを手伝っています。ゴースユも口をりんと結んで目を皿のようにして、楽譜を見つめながら、もう一心にひいています。にわかパタッと楽長が両手を鳴らしました。みんなぴたりと曲をやめて、し

んとしました。楽長が怒鳴りだしました。「あっていないよ、ゴーシュのセロが遅れている。ここからやり直した。」みんなは今の所の少し前からやり直しました。ゴーシュは顔を真っ赤にして、額に汗を出しながら、やっと今言われたところを通りこしました。ほっと安心しながら続けてひいていますと、楽長がまた

手をパッと打ちました。

「セロっ音が合わない。
困るなあ、僕は君にドレ
ミファの音階を教えている
暇はないんだがなあ」
みんなは気の毒そうにし
て、わざと自分の譜面を
のぞき込んだり、自分の
楽器をはじめてみたりし
ています。ゴーシュは慌
てて糸を直しました。こ
れは実はゴーシュも悪い
のですが、セロも古くな

っていて、ずいぶん調子が悪いのでした。「今の前の小節から、はいっ」みんなはまた始めました。ゴーシュも口をまげて一生懸命です。そして今度はかなり進みました。いいあんばいで進んでいた